

- 雪崩、吹雪、着雪、道路雪氷災害を予測するシステム
- 気象モデルによる予測値を入力とし、各種雪氷災害モデルから災害危険度を予測
- 高度化や実用化に向けてステークホルダーとの試験運用を実施中

雪氷災害発生予測システムは、気象予測や降積雪観測データをインプットとし、着雪や吹雪などの雪氷現象を扱うモデルにより各種雪氷現象をシミュレーションすることで雪氷災害の発生を予測するものです。大雪、着雪、雪崩、吹雪、道路雪氷災害を扱っています。アウトプットとしては、降雪量、着雪量、吹雪時の視程、道路路面状態、雪崩危険度などの雪氷災害の対応に必要な情報を算出しています。

雪国の道路を管理している国、県、市、民間業者などの機関と連携して、雪氷災害発生予測システムの試験運用を行っています。防災科研からは雪崩の発生危険度、吹雪による視程悪化、道路路面の雪氷状態、着雪による着雪量や冠雪量などの予測情報に加えて、webカメラによる雪崩の監視映像やなどを提供し、協力機関からは情報の有効性についての意見や実際に情報を利用する立場からの要望などを頂くものです。これまでに、試験運用を通じて予測スケジュールの調整や予測内容、情報の表示方法などの改良を行ってきました。現在も試験運用を継続して行っており、関係機関との連携のもと雪氷災害発生予測システムの高度化や実用化に向けた取り組みを実施しています。

